

J A における自己改革および SDGs の取り組み事例

《 J A 広報誌および J A 自己改革ニュース 》

R 7 / 4 ・ 5 ・ 6 月分



令和 7 年 6 月



J A 青森中央会



THE GLOBAL GOALS

【17の目標にかかるロゴマークとそれぞれの目標の解説】

目 標			
 1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	 2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
 3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	 4 質の高い教育をみんなに	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
 5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	 6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	 8 働きがいも経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	 10 人や国の不平等をなくそう	各国内及び各国間の不平等を是正する
 11 住み続けられるまちづくりを	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	 12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する
 13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	 14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
 15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	 16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
 17 パートナリシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する		

SDGsの17の目標は、各JAにおける取組みを通じてすべての目標の達成に貢献できる可能性があり、1つの取組みを通じて複数の目標達成を実現するなど、相互に関わりあう内容となっています。

目次

ページ	J A 名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
1	ごしょつがる	大豆部会総会 意見を参考に（若手・女性就農者とJ A 若手職員との意見交換会） 情報発信ツールの導入に向けて 農業生産の拡大 地域の活性化	8 働きがいも 経済成長も 	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 	17 パートナースHIPで 目標を達成しよう 	2025年4月号
2	つがる弘前	J A ゆうき青森より木炭粉受贈 やって良かったQ O L 健診 地域の活性化	3 すべての人に 健康と福祉を 	11 住み続けられる まちづくりを 	17 パートナースHIPで 目標を達成しよう 	2025年4月号
3	相馬村	直売所感謝祭 リンゴ学習贈呈式 果樹P T 会議開催 共防連総会開催 農業者の所得増大 地域の活性化	2 飢餓を ゼロに 	8 働きがいも 経済成長も 	15 陸の豊かさも 守ろう 	2025年4月号
4	津軽みらい	農作物で食農教育 生産者へ融雪剤配付 地域農業教育の充実に 地域の活性化	2 飢餓を ゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	13 気候変動に 具体的な対策を 	2025年4月号
5	十和田おいらせ	雌牛の部に中沢さん、去勢牛の部に今井さんが チャンピオン賞～子牛管理共進会～ 「ももいしいちご」出荷最盛 天候や害獣からナガイモを守る～ナガイモ実績検 討会～ 農業者の所得増大 農業生産の拡大	2 飢餓を ゼロに 	13 気候変動に 具体的な対策を 	17 パートナースHIPで 目標を達成しよう 	2025年4月号
6	ゆうき青森	スマホ教室 基礎から応用を学ぶ 稲作生産部会 通常総会 浜内千波さん料理教室 東北町の特産 使って 農業生産の拡大 地域の活性化	2 飢餓を ゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	12 つくる責任 つかう責任 	2025年4月号
7-8	おいらせ	生産者と常勤役員の意見交換会 高品質生産への栽培ポイントを呼びかけ る 営農座談会 年金友の会総会開催 農業者の所得増大	1 貧困を なくそう 	2 飢餓を ゼロに 	8 働きがいも 経済成長も 	2025年4月号
9	八戸	ながいも 作付けに向けて 振興野菜専門部五戸支部 丸いも生産販 売検討会 えだまめ栽培講習会、特別栽培講習会 農業者の所得増大 農業生産の拡大	1 貧困を なくそう 	2 飢餓を ゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	2025年4月号
10	ごしょつがる	新採用 4 人が仲間入り マメコパチ保管受付 散布適期を見極めて 農業者の所得増大 農業生産の拡大	1 貧困を なくそう 	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 	15 陸の豊かさも 守ろう 	2025年5月号

目次

ページ	J A名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
11	つがる弘前	令和6年産園芸作物各部会販売報告会および通常総会開催 土づくりセミナー開催 ピーマン・アスパラガス新規作付け相談会開催	4 質の高い教育をみんなに 	8 働きがいも経済成長も 	15 陸の豊かさも守ろう 	2025年5月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
12	相馬村	マメコバチ入庫開始 農機センター売り出し 弘前市りんご園地視察 第一回巡回講座	8 働きがいも経済成長も 	12 つくる責任 つかう責任 	15 陸の豊かさも守ろう 	2025年5月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
13	津軽みらい	水稻種子播種作業 南八甲田高原野菜生産組合通常総会 県知事がりんご園の雪害確認 交信かく乱剤設置講習会	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	15 陸の豊かさも守ろう 	2025年5月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
14	十和田おいらせ	ながいも収穫急ピッチ 常勤理事が農家を督励巡回	1 貧困をなくそう 	12 つくる責任 つかう責任 		2025年5月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
15	ゆうき青森	種もみ温湯消毒実施 天間林営農センター 水稻栽培講習会 六ヶ所村	2 飢餓をゼロに 	12 つくる責任 つかう責任 		2025年5月号
		農業生産の拡大				
16	おいらせ	秋田・男鹿の文化、歴史を学ぶ ～J Aおいらせ女性部合同視察研修～	3 すべての人に健康と福祉を 	17 パートナリープで目標を達成しよう 		2025年5月号
		地域の活性化				
17	八戸	にんにく 徹底した栽培管理を ピーマン 定植準備しっかりと 水稻温湯消毒 五戸地区で終了	1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	4 質の高い教育をみんなに 	2025年5月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
18	ごしょつがる	中学校で交通安全教室 苗の植え付け楽しく体験 女性部員と小学生が田植え	4 質の高い教育をみんなに 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	11 住み続けられるまちづくりを 	2025年6月号
		地域の活性化				
19	つがる弘前	機能性表示食品「ひろまる」PR販売 第9期農業後継者研修開講	2 飢餓をゼロに 	8 働きがいも経済成長も 	17 パートナリープで目標を達成しよう 	2025年6月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				

目次

ページ	J A 名	自己改革・SDGsの活動・取り組みの名称	関連するSDGs目標			広報誌掲載号
20	相馬村	花粉開薬所盛況 ベトナム人実習生りんご学習 第二回巡回講座開催	4 質の高い教育を みんなに 	12 つくる責任 つかう責任 		2025年6月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
21-22	津軽みらい	各地区で田植え作業 スナップエンドウ出荷説明会 建物被害に対する見舞金贈呈式 ぶどう栽培講習会	2 飢餓を ゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	11 住み続けられる まちづくりを 	2025年6月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
23	十和田おいらせ	ダイコン全国各地へ出発 ピーマン塾で経営支援	1 貧困を なくそう 	12 つくる責任 つかう責任 		2025年6月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
24	ゆうき青森	農作業を通じて地域理解 日本原燃新人研修 スタントマン事故再現 野辺地中学校で交通安全 教室 子牛管理品評会 生産・育成技術向上目指す	3 すべての人に 健康と福祉を 	4 質の高い教育を みんなに 	12 つくる責任 つかう責任 	2025年6月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
25	おいらせ	病害虫対策の呼び掛け にんにく講習会 ハウスの温度管理と水管理の徹底 水稲 現地講習会	2 飢餓を ゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	12 つくる責任 つかう責任 	2025年6月号
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				
26	八戸	にんにく 今後の管理方法学ぶ 桃 摘果のポイント学ぶ 営農指導員 ねぎ指導レベルアップ研修 令和6年度 J A 共済優績組合全国表彰	2 飢餓を ゼロに 	4 質の高い教育を みんなに 	11 住み続けられる まちづくりを 	2025年6月号
		地域の活性化 農業生産の拡大				
27	J A えひめ中央 (愛媛県)	複合施設「みなとまち まってる」を開 設 若年層や家族連れの利用増やす “J A 事 業の広告塔”	11 住み続けられる まちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	17 パートナーシップで 目標を達成しよう 	JA全中HPより 引用
		地域の活性化				
28	J A ながの (長野県)	入札式の中古農機販売会が好評 安価に購入でき農家の所得向上・生産拡 大に貢献	1 貧困を なくそう 	11 住み続けられる まちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	JA全中HPより 引用
		農業者の所得増大 農業生産の拡大				

3月18日

大豆部会総会

大豆部会では、青森県総合社会教育センターで通常総会を開き、部会員8人が出席しました。

総会前にはかねさ憐を訪問し、担当者の説明を聞きながら工場見学をしました。

その後場所を移動しての総会では、野呂修聖部会長が「米価の高騰により作付が減少傾向にあるが、当J Aの大豆は評価も高い。新品種の試験も継続しながら、生産者の収量増加に力を入れていきたい」とあいさつしました。

かねさ憐の見学 ▶



総会であいさつする山本康樹組合長

3月18日

意見を参考に

若手・女性就農者9人を本店に招き、J A若手職員との意見交換会を開催しました。J Aでは、自己改革の一環として組合員との対話による意見反映を図り、組織運営の強化を進めています。昨年開催された常勤役員との意見交換会において「若手職員との意見交換会を実施してほしい」との意見があり、今回の開催となりました。

意見交換会では、事前に聞き取りした農業経営の課題や困ったこと、J Aに対する要望について、担当職員が答えていきました。双方緊張した様子でしたが、今後の地域農業発展に向けての意見を出し合いました。

今後また、同じメンバーでの意見交換会開催を予定しており、生産者と職員との交流を深め、意見反映を図っていきます。



意見交換会に参加してくださった生産者のみなさん



3月19日

情報配信ツール 導入に向けて

J Aでは、(株)kikitoriと連携し新たに生産者向けの情報配信ツールの導入を進めています。導入にあたって、生産部会の役員向けに説明会を実施しました。

導入する「nimarujA」は交流サイト(SNS)のLINEを使った生産者向け配信ツールで、営農相談や会議などの連絡手段としての活用が期待でき、市況や販売状況などのタイムリーな情報を配信することができます。

まずは生産部会の役員を中心に運用を開始し、徐々に登録を進め活用していく予定です。



「nimarujA」の便利さを説明





JAゆうき青森より木炭粉受贈



記録的な大雪の影響を受け、早期に営農活動が再開できるように役立てて欲しいと、JAゆうき青森は、当JAを含め、農業被害を受けた津軽地域の6JAに、融雪剤（木炭粉）200袋を寄贈しました。JAゆうき青森が、広葉樹を中心に廃棄予定品を再利用した木炭粉です。園芸施設を活用している部会員を対象に配付しました。



女性部

青年部



「やって良かったQOL健診！」



青年部と女性部は、自身の健康状態を把握し、生活習慣の改善につなげてもらうことを目的に、それぞれ本店3階ホールで「QOL健診」を受診しました。「QOL健診」は、弘前大学が開発した、即日で測定、結果通知、健康教育までを完成させる啓発型の健康診断です。

参加した部員は、握力や血圧、体組成、野菜の摂取量がわかるベジチェック、ロコモ度判定の立ち上がりチェックなどを行いました。測定後、青年部は、健診結果を基に弘前市の保健師より、食事面や生活習慣などについてアドバイスを受け、女性部は、弘前大学大学院医学研究科附属健康未来イノベーションセンターと青森県中央病院健康推進室の担当者より、健康に関する講義を受けた後、結果の見方について説明を受けました。参加した女性部員のひとは「楽しく健診できて検査結果がすぐにわかりとても良い。結果を見てできるところから生活習慣を見直したい」と話しました。



青年部



女性部



26日
24日
21日
18日

17日
14日
13日

12日

11日
10日

7日

6日
5日

4日
3日

3月の記録

ぶどう部会監査会および役員会
アスパラガス部会販売報告会
洋なし部会監査会および役員会
ミニトマト部会監査会
販売委員会
青年部理事会（21日）
にんにく部会監査会および役員会
桃部会販売報告会および通常総会
トマト部会監査会および役員会
経済委員会
特産果樹部会監査会および役員会
特別栽培トマト販売報告会
ぬくもりホーム（14日）
不祥事再発防止委員会
経営会議
管理委員会
指導りんご委員会
金融委員会
女性部冬期サークル
「カラフルおはぎ作り」
第8期農業後継者研修閉講式
第9回りんご振興協議会
ぶどう部会販売報告会
および通常総会
監事会
支店組合員大会（19日）
経営会議
ピーマン部会販売報告会
ミニトマト部会販売報告会
および通常総会
洋なし部会販売報告会
および通常総会



うれしい企画がもりだくさん

3月20日から23日の4日間直売所において、「感謝祭」が行われました。

期間中は買い上げ金額の5%が割引になるとあって、買い物客は次々にJAのCA貯蔵リンゴや切り花などをかごに入れていました。その他にも先着100名様には卵と牛乳をセットでプレゼントする企画や、青天の霹靂や野菜詰め合わせがその場で当たるくじ引き抽選会も行われました。

お客様からは「物価が高いので少しでも安いと嬉しい」や「米が欲しかったがはずれて残念」などの声が聞かれ、終始賑わっていました。

直売所 感謝祭



リンゴ学習よくがんばりました

3月24日、相馬小学校において令和6年度「農業ふれあい教室」作文・かべ新聞コンクールの表彰式が行われました。

相馬小学校3年生17名が、リンゴ学習についての感想を作文やかべ新聞にまとめ、青森県JA女性組織協議会主催の「農業ふれあい教室」に応募しました。

田澤真由美女性部長から、作文コンクール最優秀賞の三浦琉生さんへ、賞状とトロフィー、副賞の青天の霹靂5キロが送られ、児童たちは大きな拍手を送っていました。

りんご学習贈呈式



着色や葉形の基準を話し合うメンバー

3月27日、果樹産地強化プロジェクトチーム会議を開催しました。メンバーの生産者10名、三上販売部長、農業振興課3名が出席し、令和7年度から取扱いを始める「葉とらず有袋ふじ」について話し合いました。

取扱い要領や推奨する栽培方法、上実・くず実などの区分による出荷選果基準、着色や葉形によるJAでの選果基準など細部まで検討を行いました。

果樹PTでは、今後も組合員の所得向上を目指していくことを確認しました。

果樹PT会議開催



団体の部 五所共防2連覇達成!!

4月1日、相馬村農協共防連の通常総会が相馬ふれあい館で開催され、各共防と来賓合わせて50名が出席しました。

三上由紀夫会長より挨拶で「昨年は雪解けが早く4/18より防除が開始され、コンフューザーの設置も約9割まで行われたことで、高品質となった」と話していました。

その後、立木品評会の審査結果が発表され、団体の部では五所共防が金賞、個人の部では有袋ふじと農協長賞を大場俊一さんが受賞しました。今回の総会では、役員改選もあり、次期会長に成田陽平さんが選出されました。

共防連総会開催



農作物で食農教育



3月12日と13日、北海道のJAきたみらいの齊藤和雄代表理事専務らが黒石市と平川市を訪れ、馬鈴しょと玉ねぎの贈呈式を行いました。両市にそれぞれ馬鈴しょ1800kg、玉ねぎ360kgが寄贈され、学校給食の食材などに用いられます。

2月には当JAとJAきたみらいが北海道の北見市、訓子府町（くねつぷちょう）、置戸町（おけとちょう）を訪問し、当JAはりんご、JAきたみらいは馬鈴しょと玉ねぎを贈呈しました。



北見市役所の贈呈式



黒石市役所の贈呈式（3月13日）



平川市役所の贈呈式（3月12日）

地域農業教育の充実に



大川記念農業教育基金協会（佐藤龍海会長）は3月25日、平川市役所で農業等図書費寄贈を行いました。

同協会は、旧JA津軽平賀の組合長として長年活動してきた故・大川豊氏が、地域農業の活性化のため、今後の農業後継者やJA役職員の教育事業に活用してほしいと自身の退任慰労金を寄贈したことをきっかけに発足しました。

佐藤会長が目録を長尾忠行市長に渡し、長尾市長は感謝状を贈るとともに、長年の寄贈に感謝の意を表しました。



目録を受けとった長尾市長（中央）

生産者へ融雪剤配布



県南のJAゆうき青森は2月、大雪による農業被害を受けた津軽地域の6JAに対して、製造している融雪剤「木炭粉（1袋/15kg）」を200袋ずつ寄贈しました。

当JAに配布された木炭粉は協議の上、水稻、りんご、高冷地野菜、トマト（ミニトマト含む）の上位出荷者5人に10袋ずつ配布しました。生産者は「融雪剤の配布はとてありがたい。春作業を適期に行えるよう、有効的に活用したい」と話しました。



融雪剤を受け取る生産者（右）

地域の問題を紹介します

2/28



雌牛の部に中沢さん、去勢牛の部に今泉さんがチャンピオン賞 ～子牛管理共進会～

当JAと十和田市黒毛和種改良組合は、三本木畜産農協事務所構内で子牛管理共進会を開きました。審査の結果、雌牛の部には中沢聖弥さん出品の「かんた」、去勢牛の部には今泉成一さん出品の「真院」がチャンピオン賞に輝きました。

同会は飼養管理技術の向上と優良な雌牛を地元に残す保留牛選抜を目的に行っています。この日は市内の繁殖農家20戸が育てた月齢12カ月未満の雌牛33頭、去勢牛19頭が出品されました。

中沢さんは「3年ぶりのチャンピオンに驚いている。日々の飼育の試行錯誤が今回の結果につながったと思う」と喜びの笑顔を見せていました。

チャンピオン賞▶雌牛の部=中沢聖弥

▶去勢牛の部=今泉成一

優秀1席▶雌牛の部=白山雄治郎 去勢牛の部=久保英美

優秀賞▶雌牛の部=太田和政、川上新一、前川原弘文、

農工園、豊川孝将

▶去勢牛の部=今泉成一、前川原弘文

優良賞▶雌牛の部=仁和勝千代、前川原弘文、久保英美、

中野渡成人、小原修治

▶去勢牛の部=農工園、中野渡成人、畑山寛志、

沢目喜代人

—敬称略



▲雌牛の部チャンピオンの「かんた」と中沢さん



▲去勢牛チャンピオンの「真院」と今泉さん

3/10



天候や獣害からナガイモを守る ～ナガイモ実績検討会～

野菜振興会ながいも専門部会はJA本店で実績検討会を開き、令和5年産の販売額が12億8千万円(前年比98%)で出荷量が4,590t(前年比102%)となったことを報告しました。7年産は排水や鳥獣害対策について情報共有を強化し、品質・収量の維持向上を目指すことを確認しました。

生産者表彰では、品質を競う共励会と100m掘り共励会で総収量が高い上位3人を表彰しました。

【品評会受賞者】

最優秀賞/立崎洋史(大深内) 優秀賞/中野雄一郎(大深内)

優良賞/山端正男(三本木)

【3.6作戦100m掘り共励会受賞者】

特別賞/立崎洋史(大深内) 特別賞・仁和勝千代(大深内)

特別賞・大久保利美(三本木)

—敬称略



▲(左から)仁和さん、大久保さん、山端さん(代理)、中野さん、立崎さん、竹島大志部会長

3/12



「ももいしいちご」出荷最盛

ももいし支店管内の莓集出荷所で生食用イチゴ「ももいしいちご」の出荷が本格化しています。多い時は日量240ケース(1パック250g)を出荷し、直売所「かだあ〜れ」や「おはよう広場」のほか、県内の食品スーパーマーケットに並んでいます。

今春は気温が安定しなかったことで、受粉に重要な蜂の動きが鈍化。

出荷始めの2月は奇形が例年より多くなりましたが、3月に入ってからハサイズが中心となり、気温の上昇に伴い収量や甘みも上がってきました。生産者は適期収穫で前半の巻き返しを目指します。



▲「ももいしいちご」の出荷が本格化している莓集出荷所

3/4 スマホ教室 基礎から応用学ば



使い方を学ぶ参加者

J A ゆうき青森は、本店と天間林支店でスマホ教室を開き、4日と5日の2日間で17人が参加した。

講師は㈱ビジネスサービスの木村大助さん。カメラの使い方などを学ぶ「入門編」、インターネットで検索する方法や災害時のスマホ活用方法などを学ぶ「基本・応用編」の2部構成でスマホの使い方を伝授した。

参加者は、「面白かった。初めて知る機能もあり楽しく学べた」「大変役に立つ講座だった。随時開催してほしい」と笑顔で語った。

3/7 稲作生産部会 通常総会



あいさつする古屋敷会長

J A ゆうき青森稲作生産部会は七戸町中央公民館で令和6年度通常総会を開催した。役員改選では、新会長に小又政幸さん(所属:みよこ米協議会)が選ばれた。

議長を天間林地区の甲田美喜雄さんが務め、令和6年度の事業報告及び収支決算、令和7年度事業計画案及び収支予算案など、5議案が原案通り承認された。

そのほかの新役員は次の通り。(敬称略)

役職	所属団体名	新役員名
副会長	上野崎農事研究会	高松敏幸
副会長	榎林野菜組合水稻部門	附田晃弘
監事	甲田六耕会	古屋敷一
監事	金木農事研究会	小又勇喜男

3/16 浜内千波さん料理教室 東北町の特産使って



料理のポイントについて解説する浜内さん

青森原燃テクノロジーセンターは、東北町の宝湖館で、東北町の特産を使った料理教室を開催した。J A ゆうき青森は、後援として材料のながいもを贈った。

講師は、テレビや雑誌などで活躍する料理研究家の浜内千波さん。町内外から70名が参加し、プロの技を学んだ。

料理教室のテーマは「東北町食材を活かしたココロとカラダ幸せ健康レシピ」。牛肉の冷しゃぶとながいのボン酢和えやシジミのミルクスープなど4品を調理。参加者は、浜内さんから調理のアドバイスを受けながら、料理を楽しんだ。

料理教室後の講演会では、「幸福な人生には料理が欠かせない」と述べ、家庭料理の大切さを語った。



生産者と常勤役員の意見交換会

2月28日にグランヒルつたやで「事業報告会及び生産者と常勤役員意見交換会」を開催しました。

皆様から頂いたご質問とご要望をご報告いたします。



Q1 六戸支店の選果場だが、出荷最盛期に故障したら、どういう対応を取るのか。国の修繕費用の補助事業を活用して修繕する考えはあるのか。秋人参に関して、出荷後の11月過ぎから今も高値で推移しているの、冷蔵保管するような技術を確認して、夏人参をいくらかでも秋人参に移行して、生産者の収入増に繋げて行くべきではないかと思うがどうか。

A1 六戸支店の人参選果場については、同じ場所に新たに建設することは困難であり、現状の施設をメンテナンスしながら使用していきたいと考えております。故障した場合には本店の人参選果場に運搬して選果して、迷惑をかけないような方法を取りたいと思っております。国の修繕費用の補助事業について、施設の統廃合等を伴うものは対象となりますが、今ある施設を修繕するのは対象となりません。秋人参は高値で推移しているという事ですが、例年ですと秋人参は北海道が出ると安値になるので、可能かどうか、農協内部の状況も踏まえて、人参加会とも相談して、検討していきたいと思っております。

Q2 昨年の理事定数と年齢要件の変更に関するアンケートについて、その後、どういった協議がなされたのかを説明して欲しい。

A2 当農協の理事定数と年齢要件の変更に関して、役員協議会で協議した際に、組合員の皆様の意見を参考にしてはという事で、アンケートを実施しました。アンケートの結果は、理事定数削減は9割方が賛成で、年齢要件変更は8割方が賛成という結果になりました。それも含めて、役員協議会を開催し、その後、理事会に上程しております。総代会案件ですので、今年6月の総代会で承認頂ければ、理事定数と年齢要件の変更となります。また、総代定数の変更も総代会に上程します。理由としては、組合員の大幅な減少、社会情勢に合わせての変更となりますので、ご理解頂ければと思います。

Q3 先日、営農座談会が開催されていて、厳しい意見があったと聞いている。農協の経営もそうだが、農家の経営もここ数年、大変厳しくなっているというのは皆の意見だと思っている。農協が発足した頃は、農協にはメリットがあるという事で立ち上げたと思っている。今、現在、農協は厳しいという中で、メリットはたくさんあると思っている。各部署のメリットを再確認して、弱くなっている部分は改善して、それをPRして、原点に返って事業に取り組むべきではないか。早急に協議して、生産者に理解を得られるようにしていかなければならない時期かと思う。

A3 普段からやっておりますが、今後も内部で協議して、出向く職員を増やしていきたいと思っております。今はTACという事で営農部を中心にやっておりますが、更に充実させて、組合員の皆様の意見を聞きながら、農協を利用するメリットをもっと伝えていきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

Q4 1月末に行われた座談会だが、理事も参加できないのか。結局、難しい質問だと持ち帰って検討するとなっているので、理事も各地区に参加しても良いのではないかとと思うので検討して欲しい。

A4 コロナ前までの12月の農協座談会には各地区に理事が参加するように行っておりましたが、参加者の大幅な減少等もあって、開催の是非も含めて、検討中です。営農座談会については、常勤、営農委員とともに参加できるよう検討して、進めたいと思っております。

高品質生産への栽培ポイントを呼びかける 営農座談会

2月13、14日に六戸町内のべ23か所で、2月17、18日に三沢市内のべ16か所で、毎年恒例の営農座談会を開き令和7年産に向けた営農情報の提供を行いました。

営農座談会には、指導課、販売課、購買課、三沢普及分室、肥料農薬メーカーで班を組み、春作業の注意点や農薬の適正使用、緑肥の使い方等を中心に説明。各作物ごとに重要なポイントや最新情報を伝えるとともに、質疑応答や意見交換を行い、生産者の関心事を共有しました。これらの意見は、今後の営農指導や事業内容の検討に活かしていきます。



沖山ふれあい館



細谷集会所

乙女座
8/23～9/22

【全体運】順調ではありますが自分の思う方向と少し違いジレンマが生じがち。丁寧に向き合い、軌道修正していきましょう。
【健康運】体調面は良いものの心配事が増えてしまうかも。
【幸運の食べ物】アスパラガス

獅子座
7/23～8/22

【全体運】非常に勢いがあり波に乗れます。良い結果を出せて周囲からの称賛も得られそう。ただ、偉そうな態度は控えて。
【健康運】元気が出てきます。飛び出しのけがには注意。
【幸運の食べ物】根ミツバ

本店 年金友の会総会開催

2月8日にJAおいらせ本店で、第21回本店年金友の会総会が開催され、82人の会員が出席しました。総会では、令和6年度活動報告及び収支決算書の承認、令和7年度活動計画及び収支予算書（案）の承認、新役員の選任など計6つの議案が審議され、すべて原案通り承認されました。また、参加会員の多数決により、来年度の親睦旅行先は福島県に決定いたしました。

親睦旅行では、室町時代の趣を備えた池泉廻遊式庭園「浄楽園」や花と緑の情報発信基地「須賀川フラワーセンター」といった観光地を巡り、八幡太郎義家ゆかりの地「母畑温泉 八幡屋」での宿泊を予定しております。会員の皆様同士の親睦を深めていただける機会となりますので、ぜひご参加ください。

※旅程は変更する場合がございます。ご了承ください。



支店 年金友の会総会開催

2月8日にきざん三沢で、第24回六戸支店年金友の会通常総会が開催され、97人の会員が出席しました。総会では、令和6年度活動報告及び収支報告について、令和7年度活動計画及び収支計画について（案）が審議され、すべての原案通り承認されました。

総会後の、懇親会では、おいしいごはんやお酒を楽しみ、余興では会員の方々によるカラオケやゲストとして役員の佐々木定次郎さん率いる、新舞踊「皐月会と仲間たち」を招いて踊りを披露していただき、交流を深めました。



ながいも 作付けに向けて



▲ ながいも栽培の注意点を確認する生産者

ながいも専門部は3月6日、管内3箇所でながいもの栽培講習会を行い、このうち五戸営農センター（東部）での講習には、生産者22人が参加しました。

農業普及振興室の木下貴之主幹が講師を務め、令和6年産の作柄と気象経過、春掘り作業、種いもの選別や植え付け時期などについて説明を行いました。

講師は「今後の作業は計画的に進め、適期に植え付けをしてください。また大雨に備え、ほ場の排水対策も徹底しましょう」と話し、病害虫に関してもほ場観察を徹底し、早期の防除を呼びかけました。

振興野菜専門部五戸支部 丸いも生産販売検討会



振興野菜専門部五戸支部は3月12日、アピル五戸で丸いも生産販売検討会を行い、生産者やJA職員22人が参加しました。

金澤幹雄部会長は「数年ぶりにこうして集まり検討会を開くことができました。どうしたら品質の高いものを栽培していけるかなど、たくさん情報交換していきましょう」とあいさつしました。

五戸営農センター（西部）の館俊秀販売担当が令和6年度の丸いも販売結果および等階級発生比率について、五戸営農センター（東部）の小波匡進係長より、優良種子の選抜と増殖の方法、栽培日誌の集計結果について説明を行いました。



▲ 丸いもの販売結果を聞く参加者

えだまめ栽培講習会、特別栽培講習会



▲ えだまめ栽培の注意点を説明する澤口担当

豆類専門部は3月18日、Aコープ田子店でえだまめ栽培講習会、特別栽培講習会を行い、生産者20人が参加しました。

三戸営農センターの澤口淳担当が講師を務め、えだまめの播種時の注意点や温度管理について説明したほか、青森県認証特別栽培について、指定されたもの以外の肥料、農薬は使用しないよう呼びかけました。

澤口担当は「ダイズサヤタマバエなどの害虫防除については、開花後にスタークル顆粒水溶剤の使用が効果的です。収量、品質アップを目指して取り組みましょう」と話しました。また、消費者への信用が大切とし、栽培基準や選果基準の遵守するよう呼びかけました。